

別記様式第6

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	呉 天一
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 中国語における敬語体系と使用習慣に関する研究 —日本語の敬語体系の枠組みを参考にして—			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授 佐藤 利行		
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授 高永 茂		
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授 今林 修		
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	北京外国語大学・教授 徐 一平		
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、従来の研究では明確な定義付けのなされていない現代中国語における、所謂敬語表現について、日本語の敬語体系の枠組を参考にして中国語の敬語表現を体系化することを試みたものである。論文は第1章「序論」、第2章「先行研究の概観」、第3章「中国語敬語の歴史的变化」、第4章「中国語敬語の特性」、第5章「中国語敬語の使用意識および使用実態」、第6章「日本語敬語の本質および変化」、第7章「中国語敬語の全体像」、第8章「結論」の全八章から構成されている。</p> <p>第1章では、研究の動機・目的を論じ、清朝以前の中国語には「謙詞」「敬詞」「婉詞」という区分があり、体系的な敬語表現を有していたが、激しい社会の変化とともに、次第にその用法が不明瞭になったことを述べている。</p> <p>第2章では、先行研究について、訓詁学による表記・意味を対象とする研究と、ポライトネス理論による敬語使用を対象とする研究とに分けて概観している。</p> <p>第3章では、中国語の敬語の変化について、研究史の立場から邵敬敏と方経民の分類に従い、先秦～1912年（古代言語研究期）、1912年～1976年（中国言語学研究創設期）、1976年～現在（中国言語学研究発展期）に分けて詳細に跡付けている。</p> <p>第4章では、中国語の敬語表現における人間関係を整理し、実際に敬語表現を用いる際には、年齢、社会的地位、文化程度などを主要な要素として適切な敬語が用いられていることを明らかにする。また、中国語敬語を語用論と意味論の二つの側面から分析し、中国語敬語を体系化するために、直示的性質を有するか否か、標識の有無を検討する。その結果、中国語敬語は直示的性質を有し、有標性があることが明らかとなった。</p> <p>第5章では、1270人の調査対象者から得られたアンケート調査のデータに基づき、敬語使用の実態を明らかにするとともに、敬語に関する使用習慣についての解明をも試みた。その結果、中国語においても敬語表現が存在し、その使用については教育が大きな影響を及ぼしていることも確認できた。</p> <p>第6章では、日本語の敬語に関する多くの研究の中から、敬語の変化を中心としたものを取り上げ、敬語の本質がいかに変化し、その変化を引き起こす原因が何であるのかを分析する。その結果、日本語の敬語は平易になるとともに、誤用を生じさせることもあるが、良好な人間関係を築くための手段として効果的であることを明らかにする。</p>			

第7章では、中国語敬語の体系化を試みている。筆者は中国語敬語の標識である敬語詞を「尊敬辞」「謙讓辞」「美化辞」に分類する。これらを用いることによって話者と聴者、話題の第三者との相互関係が明確になる。文法構造としては、標識語と敬意表現としての呼称語を併用すること、授受関係を反映する待遇表現詞を使用すること、敬語標識語を用いること無く呼称詞と美化語を選択することで敬語表現が成立すると結論付ける。

第8章では、本研究の成果を整理し、今後の課題について述べる。

本論文は、これまで明確に規定されていない現代中国語の敬語体系を構築し、アンケート調査のデータに基づいて、現代中国語における敬語表現の使用意識を明らかにした意欲的な論文である。さらに中国語の敬語体系を把握し、日本語の敬語と比較した点は、中国語母語者を対象とする日本語敬語の教育法を発展させる可能性をも提示しており、日本語教育への貢献も期待できるものである。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)